

最先端の審美インプラント治療について

水木信之先生に聞く



医療法人社団信和会
ミズキデンタルオフィス・インプラントセンター横浜

水木信之院長

日本歯科大学卒業。横浜市大医学部口腔外科学院を修了し医学博士に。米国マイアミ大学医学部、NIH等にフェロー留学の経験も。2005年に横浜市大口腔外科臨床教授に就任。現在は日本歯科大学インプラント診療センター臨床講師、中国同済大学附属上海第十人民医院顧問、日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎顔面インプラント学会指導医。[インプラント治療で快適、安心] (NHK出版)などの著書も手掛ける。◎詳細はP202へ

インプラントを長くもたせるためには 骨と結合しやすくする光機能化技術と インプラント周囲炎の治療が効果的

審美インプラント治療とは？

インプラントは、歯の歯槽骨部分（頭の骨）に穴をあけ、人工歯根を直接埋入して、その上に人工歯冠を取り付ける治療です。自然の歯と同じように完全に固定し、自分の歯と同じような感覚で用いることができるので、「第三の歯」、あるいは最も天然歯に近い歯とも。外から見て自然の歯に見えるという審美性に優れている点も特徴です。近年ではCAD/CAMシステムを用いることで、オーダーメイドの審美的で壊れない補綴物を製作可能です。

光機能化技術とはどのようなものでしょうか？

光機能化技術とは、インプラントに用いるチタンの老化を克服する為に開発されました。インプラント表面に一定の波長の光をあてることにより、インプラントと骨が接着しやすくなるようにします。UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の小川隆広終身教授によって開発されたこの技術は、権威ある英文科学雑誌に多く掲載され、欧米の教育プログラムや教科書にも導入されるなど極めて高い信頼性

と効果が実証されています。 光機能化技術のメリットは？

インプラントの表面をたんばく質や細胞がなじみやすい最も適した状態にすることができ、その結果、インプラントがより早くより強固に骨と結合されるため、治療の成功率が高まるのです。また、本来治療が難しい症例においても予後が期待できます。さらに、骨造成手術などの外科手術を行わなくても済むようになるので、痛みのない腫れない低侵襲手術が可能に。その他にも、すぐに噛めるようになったり、補綴物を作るまでに要する治療期間が短縮されたりと、さまざまな点で患者さんのメリットは大きいです。

インプラント周囲炎とは？

特に注意していただきたい症状であり、インプラントがなくなる一番の原因です。歯根膜には三叉（さんさ）神経が分布しており、触覚・痛覚・温覚・圧覚などを感知し、強く噛みすぎるのを防ぎます。しかし人工歯根には歯根膜がなく、細菌感染をしても痛覚がないため、インプラント周囲炎に気がつかずに放置してしまうのです。インプラント手術を成功させるためにも、手術前に細菌感染の原因となる歯周病の対策しておくこと。手術後は定期的に専属の歯科衛生士によるメンテナンスを受け、歯周病をコントロールして良好に維持することが重要です。そのた

め当院では大学教授で歯周病専門医による確実な歯周病治療を心がけています。

医療法人社団信和会 ミズキデンタルオフィス・インプラントセンター横浜で受けられる治療



CAD/CAMシステムによりオーダーメイドな審美治療を実現

インプラント補綴では高精度な技工物が要求されることから、当院ではコンピュータのデータからチャタン・セラミックの補綴物を削り出すCAD/CAMシステムを2台導入。インプラント専属技工士により、人工歯根を被せる審美性の高いセラミックの人工歯冠をその日のうちに入れることも可能。デジタルCT画像データを基にしたコンピュータ上のシミュレーションで患者さんが納得いくまで、必要であれば数ヶ月間仮歯で調整を行った後に最終補綴へ移行。常に患者さんと歯科医師と歯科技工士とがコミュニケーションを取りながら製作しており、常に患者主体の歯科治療を心がけている。